

教育講演

女性の生活習慣と健康に関する疫学調査研究(日本ナースヘルス研究)

群馬大学医学部保健学科医療基礎学 教授

林 邦彦

【研究デザイン】

日本ナースヘルス研究(JNHS)は、日本更年期医学会、日本看護協会、47都道府県看護協会の協力のもと、2001年に開始された前向きコホート研究である。女性の健康に関するエビデンスを、世界で最も提供してきた疫学研究といわれる米国のNurses' Health Studyと、同じ研究デザインをとっている。JNHSは、(1)女性の健康に焦点をあてた本邦最初の女性コホート研究であること、(2)医学的知識を有する保健医療職集団を対象にすることで、正確な健康情報が調査で得られること、(3)10年間の継続調査(2年に1度の郵送調査)によって、疾病発生などの健康事象のみならず、生活保健習慣の経時的変化も把握できること、(4)25歳以上の幅広い年齢層を対象にすることで、女性の各ライフステージにおける健康問題が把握できること、(5)特定の地域ではなく全都道府県に調査参加者がいるため、生活保健習慣や健康事象の地理的分布も把握できること等が、研究デザインの特徴としてあげられる。

【対象・方法】

日本看護協会、47都道府県看護協会、日本更年期医学会、JNHS地域・県担当委員を通じて、全国の25歳以上の看護職有資格者(看護師、准看護師、助産師、保健師)女性を募集した。応募があった医療機関や個人に、ベースライン調査セット(研究説明書・自記式ベースライン調査票・継続調査同意書・写真つき女性ホルモン薬剤リスト)が送付された。ベースライン調査票では、生活習慣(喫煙、飲酒、睡眠、運動、食事、等)、保健習慣(検診、女性ホルモン剤、ビタミン剤等)、身体状況(身長、体重、ウエスト周長、臨床検査値等)、既往歴、家族歴(両親、姉妹)などの設問がなされた。10年間の継続調査への参加は書面にて同意をとり、同意者には、生活保健習慣や身体状況の変化、各種疾患の発症に関する調査票を、2年に一度、郵送することとした。

【ベースライン調査の結果】

2007年に終了したJNHSベースライン調査には、全国47都道府県から49,925人が回答した（1999年実施の群馬パイロット研究GNHSベースライン調査の回答者を加えると、計51,673人）。そのうち、約1/2の女性が10年間の経時観察調査に参加することに同意した。群馬県、福井県、徳島県、香川県では、同意者数が当該年齢女性人口1,000人あたり1人の目標を上回った。

ベースライン調査時の年齢分布は、30歳代が43%と最も多く、次いで40歳代36%、50歳代16%であり、20歳代は2%、60歳以上の回答者は1%であった。ベースライン調査からえられた、初経・不妊・妊娠・出産・閉経（図）といったリプロダクティブ・ヘルス関連事象、各種疾患の既往歴、閉経後ホルモン補充療法の状況について報告する。

